

全国特別支援学校病弱教育校長会

会報

第61号

発行者 全国特別支援学校病弱教育校長会
千葉県立仁戸名特別支援学校長
日下 奈緒美
編集 千葉県立四街道特別支援学校長
松崎 正敏
令和6年3月27日発行

ごあいさつ

全国特別支援学校病弱教育校長会会長
千葉県立仁戸名特別支援学校長 日下 奈緒美

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ、世の中の感染対策の様相の変化とともに、学校の教育活動においても、制限の緩和に伴う変化と展開の広がりが見られてきています。一方、病弱教育校としての感染対策は、万全を期すことが変わらず求められ、各校では引き続き、医療機関等との連携のもと教育活動の充実に取り組んでおられることと存じます。

今年度、全病長では、久しぶりに参集による総会と第1回研究協議会を開催しました。Web開催を経験したからこそ、対面で言葉を交わす大切さ、温かさを感じる機会ともなりました。8月の第2回研究協議会は、全病連の開催に合わせWeb開催でしたが、Web開催の移動時間・距離を感じない利便さを最大限に生かした情報交換の場となりました。ご協力ありがとうございました。今後、全病連の開催に合わせて令和7年度までWeb開催となります。

令和5年3月には、ICT等を活用した学習活動の取り扱いやオンデマンド型授業に関する改正等の通知が文科省から出され、小中・高等学校等と連携した遠隔教育の推進と学びの多様化への対応が求められる時代となりました。医療機関等、子供を取り巻く環境の変化の中、病気療養児の切れ目ない学習支援に、病弱教育の担う役割はさらに大きく期待されるところです。

今後とも、病弱教育の発展にご尽力いただけますようお願い申し上げます。

活動報告

令和5年度全国特別支援学校長研究大会・総会

新型コロナウイルス感染症の影響からオンラインでの開催が続いていましたが、今年度は、6月15日(木)・16日(金)、国立オリンピック記念青少年総合センターに参集して開催しました。

研究大会の主題は「共生社会の実現に向けた特別支援学校の経営の在り方～令和の日本型教育における特別支援教育の在り方～」でした。

15日は、総会で文部科学副大臣 築 和生 様、全国都道府県教育長協議会会長 浜 佳葉子 様よりご祝辞を頂いた他、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 石田 善顕 様による行政説明と、全国特別支援学校長会顧問 宮崎 英憲 様より「特別支援学校教育のこれから」、特別支援教室巡回相談心理士 綿貫 愛子 様より「学校現場で活躍するASD当事者から校長先生方へのメッセージ～当事者が率直にお伝えしたい困り感や困難さについて～」の2つのご講演をいただきました。

16日は、5障害種の総会及び研究協議会の後、「危機管理・防災教育」「学習指導要領を具現化するための教育課程の改善」「インクルーシブ教育の構築」「自立と社会参加の充実」「特別支援学校における地域と連携した人材活用の推進」の5つのテーマごとの分科会で経営課題別の研究会を行いました。



令和5年度全国特別支援学校病弱教育校長会総会

令和5年度全国特別支援学校病弱教育校長会第1回研究協議会

国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた令和5年度全国特別支援学校校長研究大会と合わせて参集型とし、6月16日(金)に開催しました。

総会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の相原千絵様、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会会長羽田京子様、同事務局長南風野久子様に来賓のご挨拶をいただきました。

研究協議会では、高知県立高知江の口特別支援学校校長窪内真由美様より「ICTを活用した学習のこれまでとこれから」、京都市立桃陽総合支援学校校長石原廣保様より「ICTを活用した学習支援の取組」の2つの実践報告をいただきました。

また、午後の研究協議会では、国立特別支援教育総合研究所主任研究員土屋忠之様より情報提供をいただき、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の相原千絵様に行政説明及び指導講評を頂きました。



令和5年度全国特別支援学校病弱教育校長会第2回研究大会

第2回研究協議会は、8月4日(金)午後、埼玉県立けやき特別支援学校を拠点としたオンラインでの開催となりました。

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の相原千絵様を指導助言者としてお迎えし、ICT機器活用(2分科会)、高校生支援(1分科会)、復学支援(1分科会)、センター的機能(1分科会)、自立活動(1分科会)の6分科会に分かれ、オンラインで協議を行いました。また、国立特別支援教育総合研究所総括研究員大崎博史様からも情報提供をしていただきました。

同じ障害種の特別支援学校を運営する校長の研修の場として、また、情報交換の場として、有意義な時間を持つことができました。

『病気の子どもの理解のために』の改定について

令和5年度も引き続き、改定作業を継続しています。今年度は、改訂の最後の6冊である胆道閉鎖症、心疾患、脳腫瘍、糖尿病、血友病、ムコ多糖症のデータや文章のチェック等を行っています。

課題として残っていた、データを置く場所や冊子の基本的な体裁等が整理され、QRコードで簡単に関連資料にアクセスできるようにする等で、便利さが増えています。

改訂前の冊子は、特別支援教育総合研究所のホームページからご利用いただけるようになっていますが、改訂版につきましても、もう少しお待ちいただければと思います。



令和6年度の予定

第1回 理事評議員会

令和6年5月13日(月)10:00~12:00

総会

令和6年6月28日(金)9:00~11:50

第1回研究協議会

令和6年6月28日(金)13:00~15:00

第2回研究協議会

令和6年8月5日(月)13:00~17:00 Web

開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

第2回理事評議員会

令和7年1月22日(水)10:00~12:00

第6回ロボットプログラミング選手権大会 2024

令和7年1月下旬 10:00~14:30

Web開催(千葉県立仁戸名特別支援学校)

ロボットプログラミング選手権大会2023（病弱教育部門）について

千葉県立仁戸名特別支援学校

2019年度に始まったロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）は今年度で5回目を迎えました。今年度は本校と分校を別校とし、より多くの参加チームを募集しました。昨年7月のエントリーを皮切りに、5地区の予選大会を勝ち進んだ20チームが、令和6年2月1日に開催された全国大会で白熱した戦いを見せました。全国大会では初の取組として参加校のアピール動画上映や後援企業による解説、エキシビジョンマッチ等も行い各会場の盛り上がる様子もオンライン中継することができました。

関東甲信越地区大会 令和5年10月5日 事務局：千葉県立仁戸名特別支援学校

今年度は分校からの参加も増え、新たに東京都立北特別支援学校東大こだま分教室も加わり、14校24チームで大会を行いました。今年度はルール改正があり、各チーム手に汗握る動きのある良い試合となりました。関東甲信越地区からは、上位6チーム（千葉県立仁戸名特別支援学校、埼玉県立けやき特別支援学校、埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校、東京都立墨東特別支援学校から2チーム、群馬県立赤城特別支援学校）が全国大会への出場権を手に入れました。

多くのご参加、ご協力ありがとうございました。



近畿東海北陸地区大会 令和5年11月14日 事務局：愛知県立大府特別支援学校

11校19チームが参加し、地区大会当日は、全国大会出場をかけて手に汗握る戦いが繰り広げられました。年々各校のプログラミングが進化し、白熱した試合が数多くありました。また、どのチームも、プログラムの内容のみならず、チーム名にも凝ったものがあり、それぞれのチームの個性や考え方が見事に反映されたものでした。

オンラインで観戦していた各チームのみなさんは真剣に画面を見つめ、応援が盛り上がっていました。ご支援、ご協力ありがとうございました。



中国四国地区大会 令和5年11月24日 事務局：鳥根県立松江緑が丘養護学校

中国四国地区大会では、前年度より3チーム増えた6校8チームがエントリーしました。どの試合も白熱した戦いが繰り広げられ、それぞれの学校の盛り上がりオンラインからでも伝わってきました。試合と試合の間には、学校紹介やチームのアピール時間を設け、チームの意気込みや応援など熱き思いが伝わる大会となりました。

参加校の皆様のおかげで、最後まで大会運営することができました。ご協力ありがとうございました。



北海道東北地区大会 令和5年12月6日 事務局：福島県立須賀川支援学校

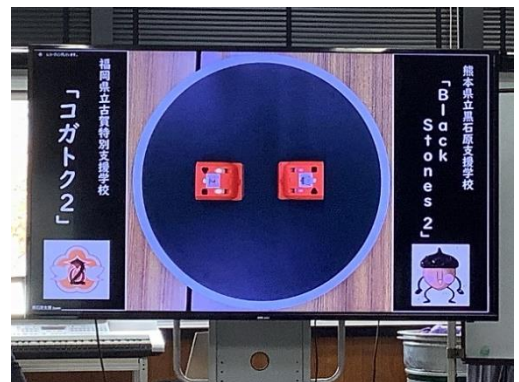
北海道東北地区大会では、6校11チームがエントリーしました。各校の実力差は拮抗し、試合は2勝1敗で勝敗が決まるケースが多く、1戦1戦がチームの勝敗を分ける重要な対戦となりました。優勝は北海道手稲養護学校三角山分校「三角山A」、準優勝は青森県立青森若葉養護学校「YES」、3位は青森県立青森若葉養護学校「FUWAWA」でした。大会の中では、チーム紹介で参加チームのプロフィールや意気込みを知り、大会への気持ちが高まることにもつながりました。

運営事務局や参加校の皆様、ご協力ありがとうございました。



九州地区大会 令和5年12月15日 事務局：熊本県立黒石原支援学校

九州地区大会には、昨年度よりも多い9校16チームが参加し、全国大会への出場をかけて熱戦を繰り広げました。熱戦を勝ち上がり、優勝したのは、長崎県立大村特別支援学校「OTSS A チーム」でした。準優勝は、福岡市立屋形原特別支援学校「屋形三人組」、3位は、長崎県立桜が丘特別支援学校「桜 A team」でした。4位の福岡県立古賀特別支援学校「コガトク2」を加えた4チームが全国大会に出場し、活躍してくれました。たくさんの参加、ありがとうございました。



全国大会 令和6年2月1日 事務局：千葉県立仁戸名特別支援学校

各地区予選を勝ち抜いてきた20チームによる手に汗握る白熱した試合が行われました。チームのアピールタイムでは動画や意気込みにそれぞれ工夫が見られ、各チームの熱気が伝わってきました。エキシビジョンマッチでは、上位入賞3チームと千葉工業大学および淑徳大学の学生審判によるプログラムとの試合が行われ、参加チーム、学生ともに一喜一憂することで、更に交流の深まりが見られました。

優勝：千葉県立仁戸名特別支援学校「ボノロン」

準優勝：北海道手稲養護学校 三角山分校「三角山A」

第3位：和歌山県立みはま支援学校「捕獲制限B」

特別賞：徳島県立鴨島支援学校「旭光」【あっくん3号】

技術賞：青森県立青森若葉養護学校「FUWAWA」【fear】

技術賞：京都市立桃陽総合支援学校

「アイデアねえよ何にも」【暴走車掌車窓清掃中】



令和4年度より全国大会の主幹校を千葉県立仁戸名特別支援学校が勤めています。多くの皆様のご協力のおかげで、円滑な大会運営や、皆様と交流を深めながら、学びの多くある良い大会が開催できました。ありがとうございました。次年度は3年目の主幹校で節目の年となります。より一層大会が盛り上がるように運営をしたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。千葉県立仁戸名特別支援学校から次の運営事務局へとスムーズなバトンタッチができるように頑張ってお参ります。